

評価レベルの考え方

○設定の考え方

本道のがん医療水準の均てん化を図るため、拠点病院が未整備となっている圏域への支援や連携による貢献度や道のがん対策に関する取組への協力などを重点的に評価するほか、圏域におけるがん医療の拠点として専門的な医療の提供や医療機関との連携状況等について、次のとおり重要度に応じて「A・B・C」の順に3段階で評価レベルを設定する。

評価レベル：A（重要度大）

拠点病院が未整備の圏域への診療・相談等の支援や連携などの貢献度や道のがん対策に関する取組への協力などを評価する。

【項目】

- 未整備の医療圏への貢献度
(医師の派遣、患者の受入、相談支援など)
- 道のがん対策に関する取組への協力
(がん対策基金への協力、がん教育への協力)
- **それぞれの特性に応じた診療等の提供体制の整備**
- **医療の質の改善の取組及び安全管理など**

評価レベル：B（重要度中）

患者支援に関する取組など拠点病院として、当該医療圏における貢献度や医療従事者の養成などの資質向上に関する取組について評価する。

【項目】

- 診療以外の特筆すべき実績
(**日常的なカンファレンスや患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的としたカンファレンスの開催数、緩和ケア研修の医師の受講率など**)
- 当該医療圏でのがん診療の中核を担う貢献度
(**当該がん医療圏における関係性の構築やがん医療の向上につながる研修等の開催など**)

評価レベル：C（重要度小）

【項目】

- 診療実績
(院内がん登録件数など)